



「花粉症」

厚生労働省の予想では、今年春の花粉飛散数は非常に多かった昨年よりは少ないですが、例年に比べるとやや多いとされています。花粉症の4大症状は「くしゃみ」「鼻水」「鼻づまり」「眼のかゆみ」です。

主に眼と鼻に症状がでます。風邪の症状との違いは以下の表のとおりです。

花粉症	かぜ
目と鼻のかゆみ	鼻のかわた感じ
さらさらとした鼻汁	粘性、膿性(色のついた)の鼻汁
のどのかゆみ、または痛み	唾を飲み込む時の、のどの痛み
発熱なし	しばしば発熱あり
例年決まった季節に起こり、季節中続く	季節不定、1~2週間で治る

症状が起こり始めた頃は、鼻粘膜にまだ炎症が進んでおらず、この時期に治療を開始すると粘膜の炎症の進行を止め、正常化させることができるため、早めに受診しましょう。鼻の症状がひどい場合は耳鼻咽喉科、目の症状がひどい場合は眼科をお勧めします。内科、小児科、アレルギー科などでも診療がうけられます。

最近では大人だけでなく、子どものスギ花粉症も増加していると考えられています。

花粉症関連グッズはさまざまなものが出ていますので、ご自分に合ったものを上手に活用し花粉症シーズンを乗り切りましょう。



「氷をガリガリかじりたくなりますか?」

川口市立医療センター
内科

副部長 長峰 守



「無性に氷をガリガリかじりたくなりますか?」という質問に「はい!」と思う方は、鉄不足のため異食症(氷食症)を生じている可能性があります。氷は鉄を含んでいないので氷食症は合理的な行動とは言えませんが、鉄が不足すると不思議と氷をガリガリかじりたくなるようです。

鉄不足のために赤血球が造れないと鉄欠乏性貧血を生じます。この貧血はたくさん鉄を必要とする成長期の子どもや妊婦(胎児成長)、月経で鉄を失いやすい女性によく起こります。月経以外でも出血が続けば徐々に鉄は不足していきます。成人男性が1ヶ月かけて食事中から吸収する鉄の量は30mgと言われていますが、この量(鉄30mg)はわずか60ccの出血で簡単に失ってしまう量なのです。

先日「氷をガリガリかじりたくなる」と訴えて若い女性が来院しました。予想通り鉄欠乏性貧血がありました。便潜血検査が陽性のため大腸カメラをお勧めしましたがはじめは「恥ずかしい」と言って嫌がっていました。最終的には検査を受け早期大腸がんからの出血が鉄欠乏性貧血の原因と判明しました。根治可能な状態で発見できて本当に良かったと思っています。

鉄欠乏性貧血は鉄剤の補充で改善しますが消化器疾患(潰瘍やがんなど)や婦人科疾患(筋腫や内膜症など)に続発している可能性もあるため鉄剤による治療以上に原因の検索が重要であることを皆さんも知ってください。

防犯

ひったくりが倍増しています。ご注意ください。

平成23年の市内ひったくり認知件数は239件で、前年の122件に比べて約2倍の被害が発生しました。

ひったくりの手口や特徴を知り、被害に遭わないよう気をつけましょう。

<主な手口や特徴>

- 自転車の前カゴに入れてあるバッグなどが多く狙われます。また、歩行中の被害も発生しています。
- バイクや自転車に乗った犯人が狙いを定め、後ろから追い越さずにひったくる手口が多く見られます。
- 女性や高齢者のかたが多く狙われています。

○同じ地域で、連続して発生する場合があります。

<被害を防ぐには>

- 自転車の前カゴに、防犯ネットやカバーを取り付ける。
- 歩行中、バッグなどは車道の反対側にしっかりと持つ。
- 自転車に乗るときや歩行中は、携帯電話、イヤホンなどを使用しない。



問い合わせ…防犯対策室 ☎048-258-5707

「市神社は活気ある地域の象徴、何より誇りです。保存会がここまでになったのもみんなの力。一人では何もできない。商売も同じ。私はそのきっかけをつくっただけ」と語る。



江戸時代、商業と交通の中心地として栄えた鳩ヶ谷宿で、3と8のつく日に「三八市」という名の市が開かれていた。市の守り神「市神社」は、いまま日光御成道沿いに建つ。「お参りする人もなく、このまま風化していくのを見ていられない」。埃が積もった市神社をふびんに思い清掃を始めてから27年がたった。

一人二人と徐々に協力者が増え、3年後に地域住民で市神社保存会が結成されてからは、当番制で清掃やお供えをするようになった。それでも毎月、自ら炊いた赤飯を供え、商店街が発展しますようにと心から祈る。「みんなと協力し合いながらやっているから苦じゃないわ」とほほ笑む。

鳩ヶ谷地区で120年続く蕎麦店の5代目。幼少のころ、店の目と鼻の先にある市神社の周りでかくれんぼをしてよく遊んだ。

「市神社は活気ある地域の象徴、何より誇りです。保存会がここまでになったのもみんなの力。一人では何もできない。商売も同じ。私はそのきっかけをつくっただけ」と語る。

「長男からはよくやるよと言われるけど、微力でも皆の為になることを陰ながら続けていきたい」と少し照れながら笑う。

駕籠から車、土からコンクリートへと街が移り変わろうとも、その長い歴史を商店街の一角で見守る市神社。道すがら、小学生が鈴を鳴らしてお参りをする姿に、悠久の歴史とそれを陰ながら支えてきた人の思いが次の世代へつながって行くことを確信した。(美)



受け継がれる歴史と思い

市神社保存会 齊藤久美子さん(鳩ヶ谷本町2丁目)

その熱い思いや、気風の良し人柄に惹かれ、若い仲間も徐々に増えている。清掃の合間の井戸端会議も地域コミュニティの一翼を担っている。「今ではお供え物を乗せた三宝が2台も添えられるほど賑やかになった」と喜ぶ。傍らで見守る人間の心が現れているかのように市神社は艶やかに輝いている。